

◎ 義宮様新御殿へ  
義宮様には先に仰せ出された如く十九日  
午前十時半宮城御出門青山御殿に御移居  
遊ばされた  
御寢宮は青山御殿に入らせられる御自動  
車







野村大使送別會  
日米協會では十九日午後零時半より帝國  
ホテルで野村新駐米大使の歡送午饗會が  
催された  
野村はその歡送會に野村大使の挨拶



同 照 寫 眞 第十四十六號  
十五年十二月十九日

伊 大 使 參 內  
伊 大 使 マ リ オ ・ イ ン デ ル リ 氏 は 十 九 日 午  
前 十 一 時 夫 人 同 伴 參 內 、 皇 后 陛 下 に 謁 見  
仰 せ っ け ら れ た  
寫 眞 は 同 夫 妻 の 參 內





同照寫眞

第十一十四號

十五年十二月廿日

○義宮様興津へ

義宮様には廿日午前九時十二分東京御  
發興津の伊藤公別荘獨樂莊に向はせられ  
た。御寫眞は東京驛にて講齋









の日佛會商佛印代表入京  
 日佛印會商東京會談の佛印側委員十六名  
 は十九日午後五時四十五分の特急一かも  
 めいで入京した、ついで廿日午後三時  
 廿五分東京着の列車で佛本國よりロバ  
 ン團長一行も入京した  
 一、東京に着佛印代表の一行、前  
 列左端がクリザン團長  
 一、佛國代表一行 向つて石ロバン團長、





◎本多大使の壯行會 左出迎への俄國大使  
 新中國へ特命全權大使として近く乗込む  
 本多熊太郎氏壯行會が十九日午後六時か  
 ら上野精養軒で開催、松岡外相、金光厚  
 相はじめ、山瀬翁等六百名近く参集盛會  
 であつた。賓客は乾盃左より二人目、山  
 本多大使、松岡外相



新體制の五つ安藝等初稽古  
氣分が溢れてゐるが出羽ノ海部屋では廿  
一日早朝から寒氣を衝いて初稽古を行つ  
た。氣分はその稽古  
○山下航空總監一行獨伊へ  
今般下イツ及イタリア軍部の招待に應じ  
山下奉文航空總監を首班とする一行を派  
遣せられることゝなり右一行は今次歐洲  
大戦の經驗を現地に於て研究すべく廿二  
日午前九時東京驛出發の予定  
官邸は山下總監







同明寫眞 第九十號 十五年十二月廿一日

◎爆彈點檢

（ローマ）發回照

長驅英本土爆撃に赴かんと準備体制を整へる伊航空隊







河内宗真部 十二月廿二日 日曜  
二内地 一由一信

○山下航空鶴堂 一由一信

姓伊西又軍部の招請による山下航空鶴堂  
を首魁とする独甲派軍團の一は廿二日  
午前九時在る山形縣の河内軍部を襲撃した  
内山真保 貝原利右衛門 独大使と推定する

○佛教各宗合同協議会 山下中將

佛教各宗派合同し強力な機構の下に  
兩宗派の大産出散を強化する取  
次と宗派の合同協議会は廿二日午の  
九時より山形縣河内軍部に於て開かれた  
山形協議会云















同盟軍奥部

十二月廿二日

◎アムステルダム之国防強化

歐洲動亂の拡大に伴い南米

諸島も国防強化に全力を要

すべし

宣明はアムステルダム之海軍軍艦

ニ五月廿五日ニ口舌の論争洋艦







同 御 宴 會

第十一十三册

十五年十二月廿三日

○皇太子殿下第七回御誕辰  
廿三日は皇太子殿下の御七回御誕辰の儀  
目出度き日として甚深い早朝より宮城二重  
橋前には續々と小學生が参集して寫眞の  
やうに萬歳を奉唱した







○新舊法相事務引継

廿三日午前十時司法大臣官邸に於て新舊

法相の事務引継が行はれた

宣旨は向つて右が風見舊法相、左が柳川

新法相

○新舊内相事務引継

廿三日午前十一時五十分から内務省大臣

室に於て新舊内相の事務引継が行はれた

後内務省會議室に於て省員一同に両相よ

り訓示あり次官が之に應へて挨拶を述べ

た。宣旨は次官の答辭







御馬上の御英妻  
御元二千六百年記念大砲兵式の  
御寫眞は絶  
御寫眞部謹寫  
御本社寫眞部謹寫







同 頁 寫 眞

第十四 十六號

十五年十二月廿三日

○米穀統制委員會

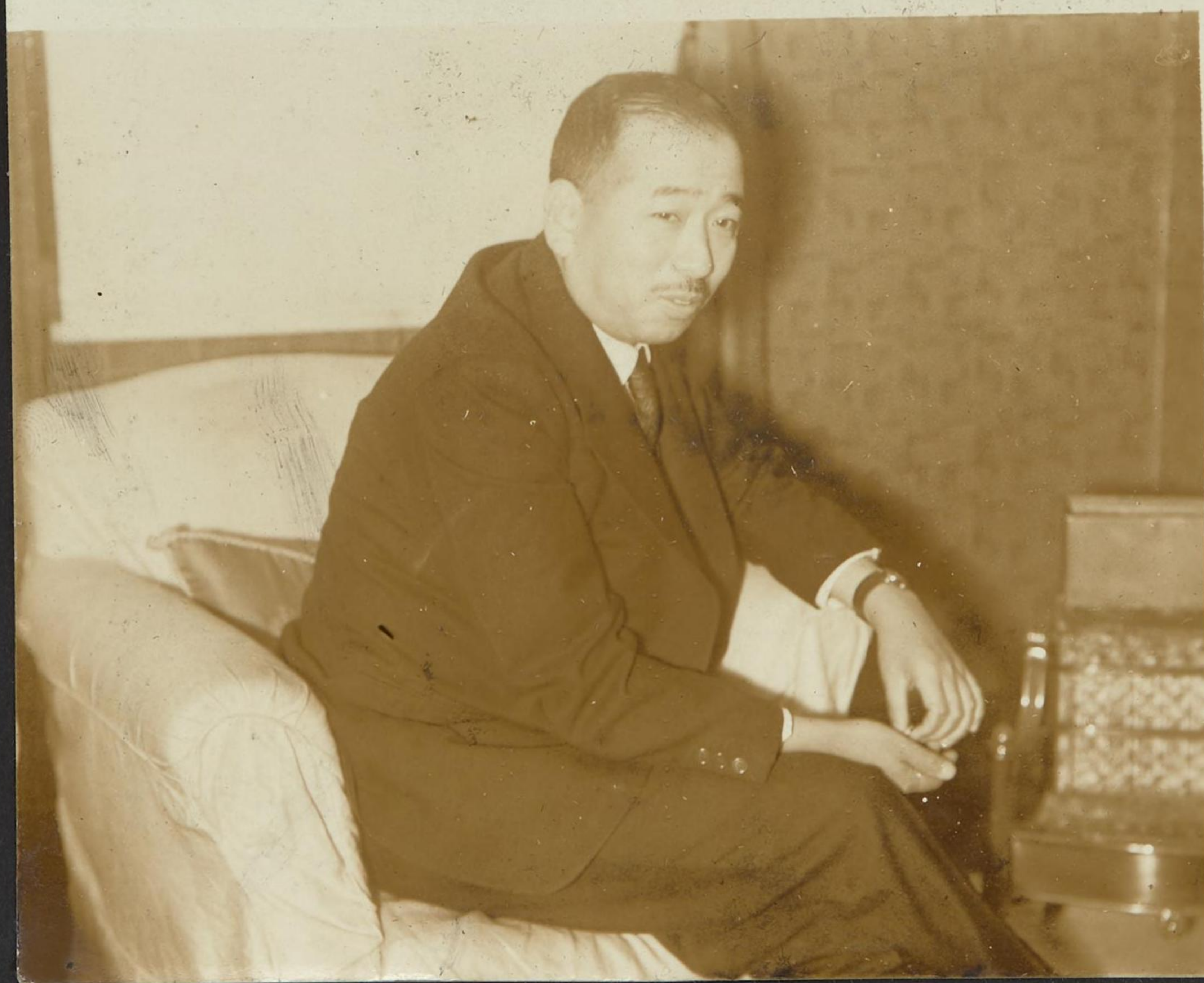
廿三日午前九時半より農相官邸に於て米

穀統制委員會を設け、緊要問題に就て種

種議せられた

委員は同委員會







同窓會

第十一

十五號

十五年十二月廿四日

○第七十六回總會召集

無黨無派の新体制下最初の第七十六議會

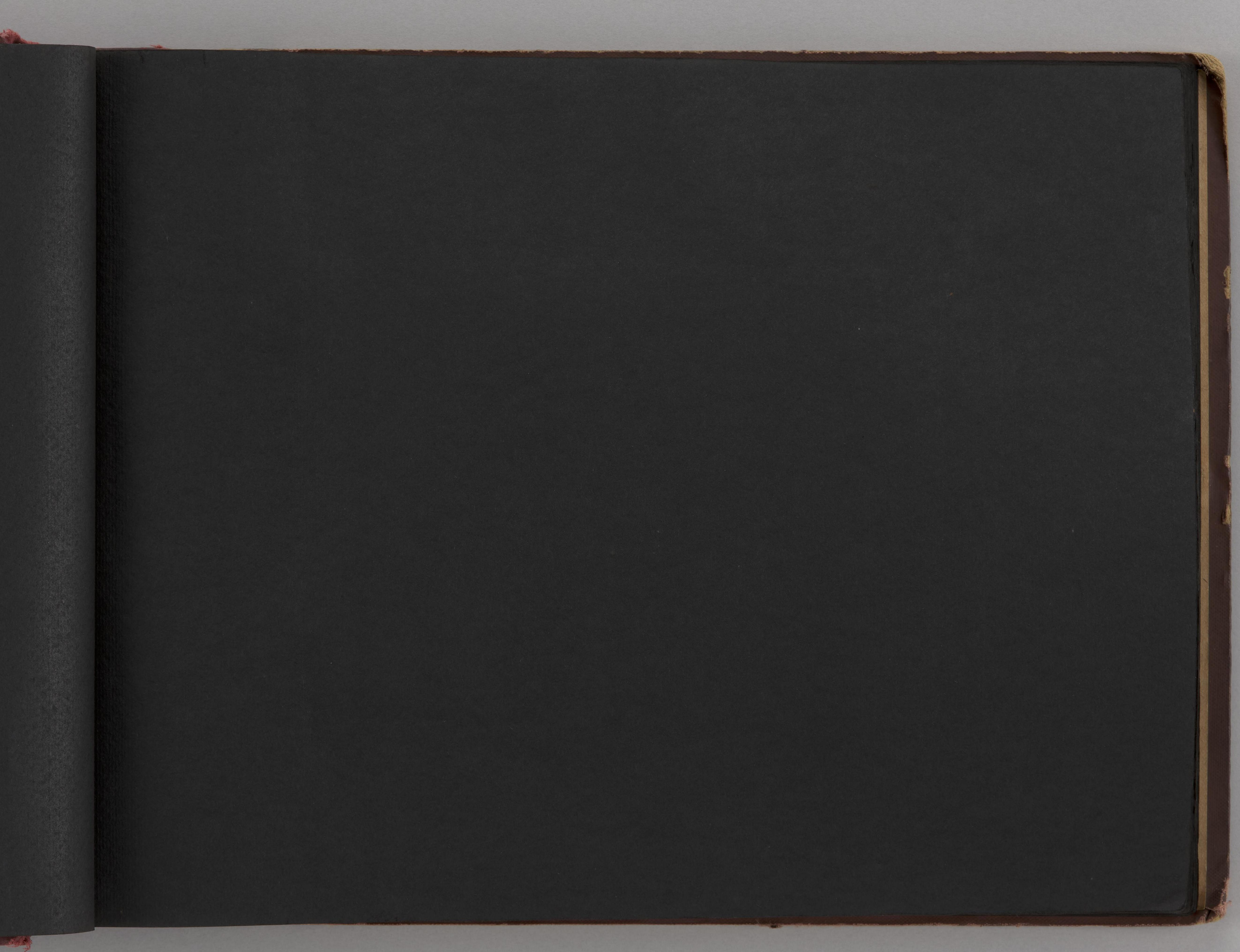
は廿四日愈々召集された。嘉應は

一、政黨を脱して吳越同舟の各議員同席風景















○兩大使參内  
卸任瀧洲國特命全權大使李紹庚氏並びに  
瀧洲聯邦特命全權公使サ・ジョン・レ  
・サム氏は廿四日午前十一時参内して信  
任状を捧呈した。李氏は瀧洲國大使館に  
於て李大使、瀧洲公使館に於てレ・サム  
公使







日通の歴史 第十二号

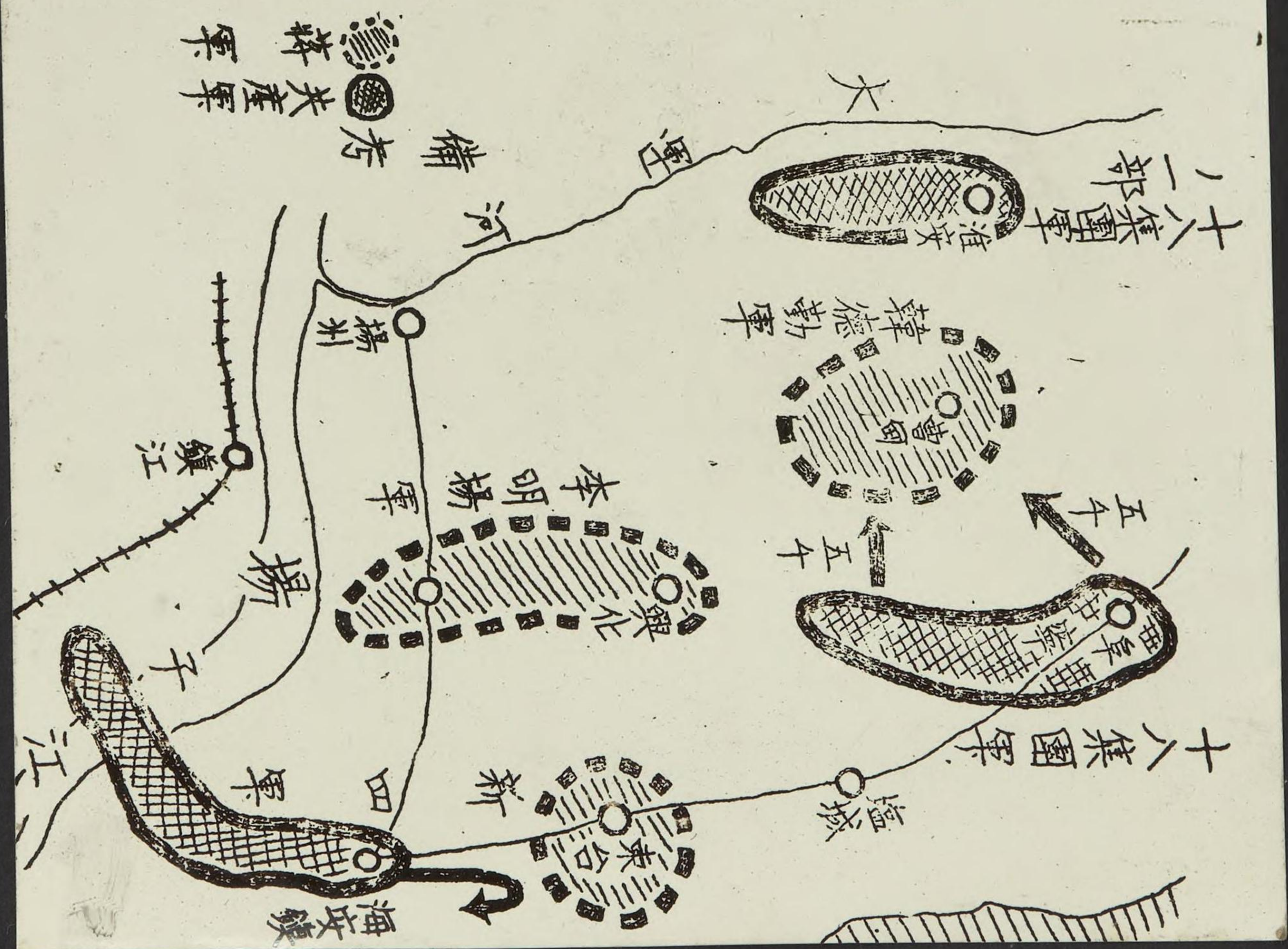
◎抗戦支那の共相刻

重慶の防衛は、本軍の命を全うし、十八日、本軍及び  
新四軍の駐命令に付、中、共、産、民、軍、は、  
飽くまで、其の不服従を改め、命令に共産軍は、  
其の像、亦、空、前、方、に、他、機、に、直、面、す、る、に、上、つ、た、  
が、真、正、に、大、運、河、東、方、に、共、相、刻、西、中、日、  
の、共、相、刻、西、中、日、

◎五月廿二日函状

甲、甘、青、山、東、運、統、各、回、題、に、就、て、の、協、議、会、  
は、各、回、代、表、員、を、任、命、す、る、に、付、て、其、日、午、午、  
一、時、に、ハ、ソ、ノ、各、回、官、報、に、於、て、開、け、ら、れ、た、  
が、其、日、午、午、の、会、で、甲、東、は、撥、回、す、た、















海軍大臣

第十一十四號

十五年十二月廿六日

の議會開院式行幸

皇くも天皇陛下には廿六日貴族院に於て

舉行の第七十六回議會開院式に親臨遊ば

された。

御幸直は

一、議事堂前にて講寫の函簿

一、開院式終了後大臣室ベランダにて各

大臣の記念撮影



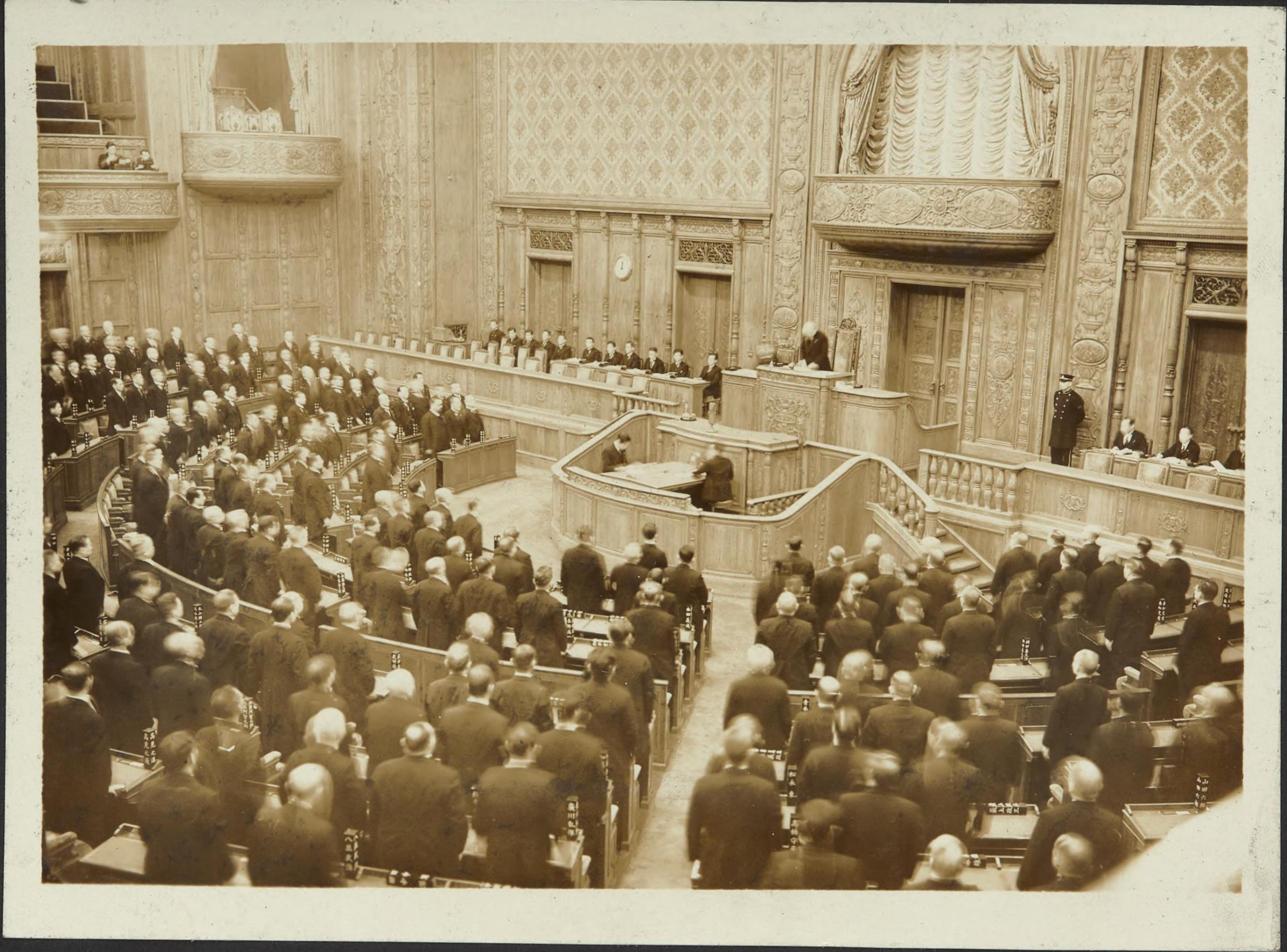






○衆議院本會議  
廿六日衆議院は開院式終了後午前十一時  
四十分本會議を開會して勅語奉答文を可  
決した。寫眞は勅語奉答文可決







○顯功章授與式  
海外萬里の波濤を驚つて活躍する我が商  
船員のため授與される顯功章が廿六日返  
信省大臣室に於て三十八名の殊勳者に對  
し第一回授與式が舉行された  
○顯功章授與式  
廿六日







開院憲章

第十一十五號

十五年十二月二十七日

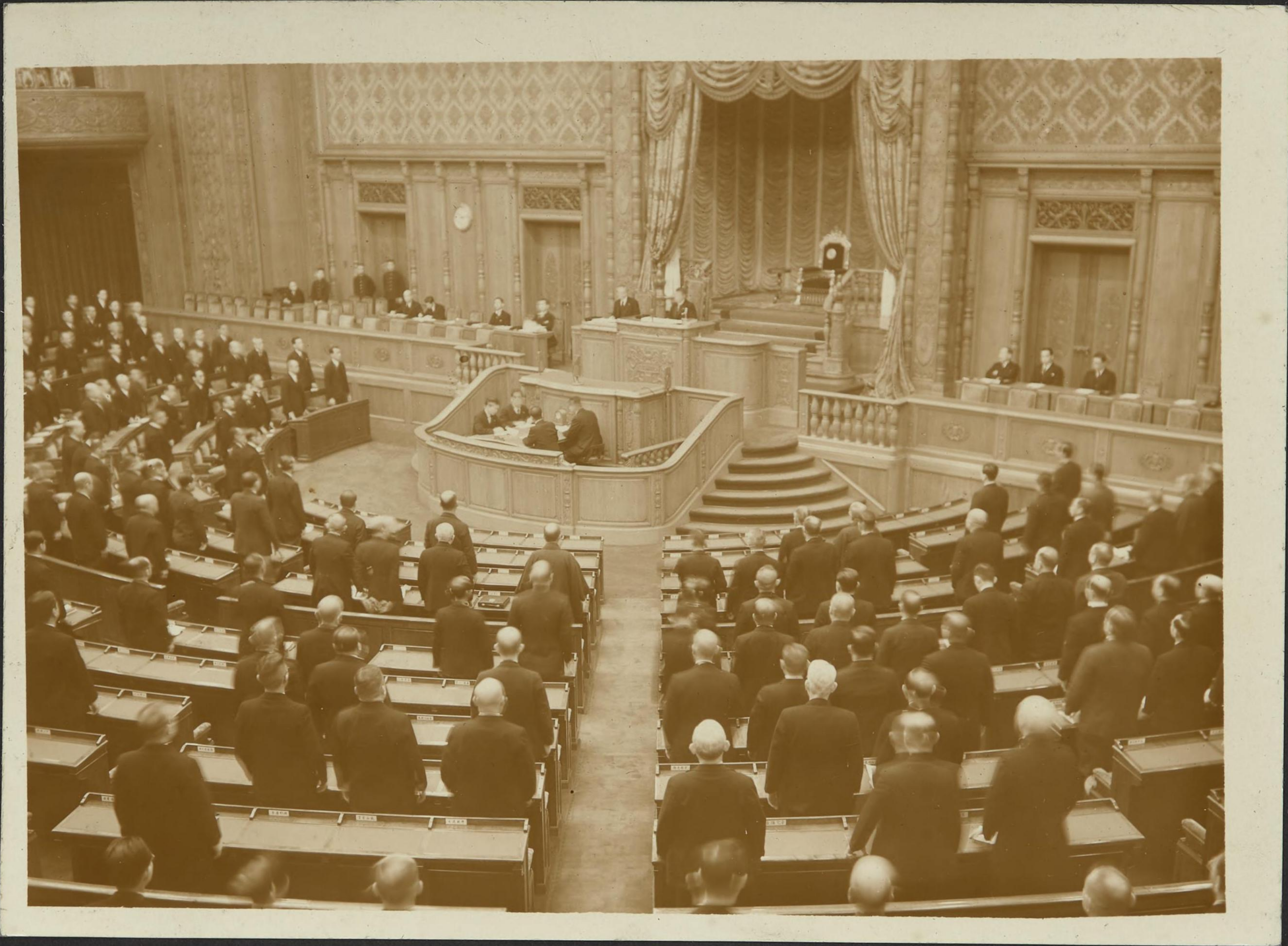
◎貴衆兩院本會議

議院會議は廿七日貴衆兩院とも年内最終の本會議が開かれた。

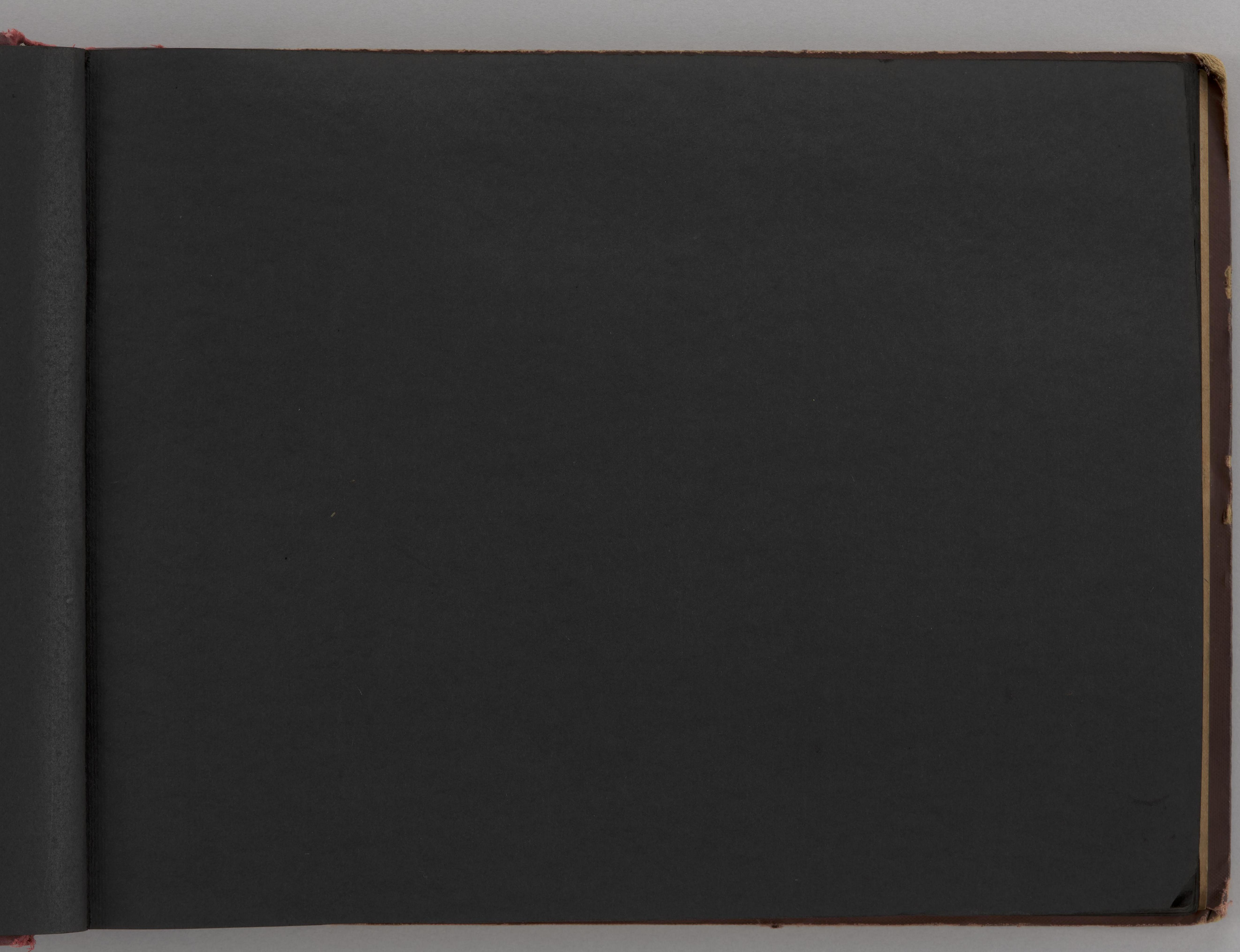
内容は

- 一、貴族院に於ける勅語奉答文可決の刹那
- 一、衆議院にて東條陸相の謝辭
- 一、貴族院にて及川海相の謝辭















同野寫眞 第十一十四號

十五年十二月廿八日

○日佛印東京會談

松岡外相は廿八日午後零時半から外相官邸に於て佛國使節團、佛印關係者を招待して午餐會を開催した

寫眞はその午餐會

○小林商相西下

小林商相は廿八日午後一時東京驛發列車で歳末休暇のため歸郷した  
寫眞は東京驛の車窓







◎感状授與

廿八日午後四時陸軍省より感状に輝く殊

功者の

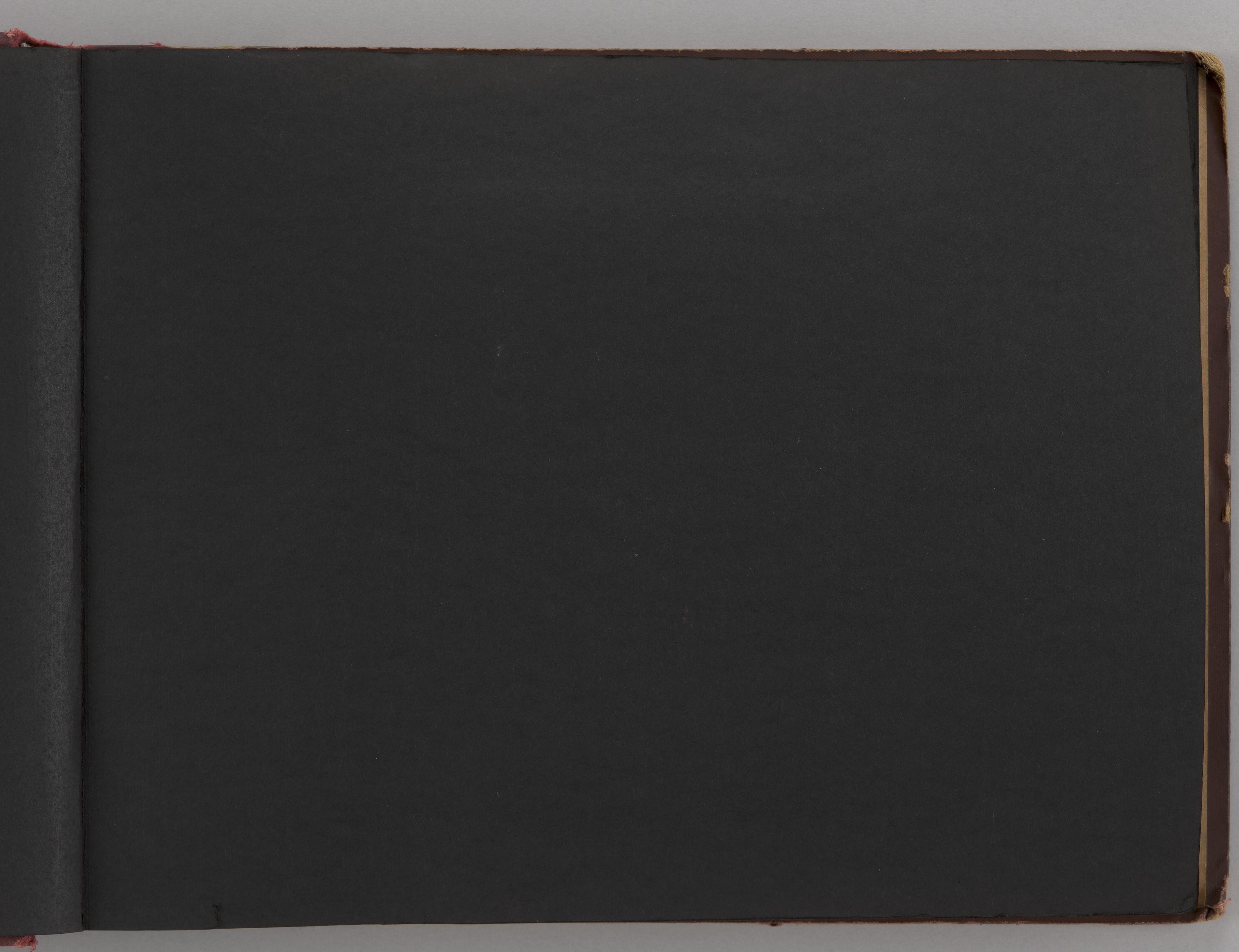
賞状は

- 一、感状を授與された田中憲兵司令長官
- 一、山脇部隊長の留守宅、右より倉重大尉、山脇夫人、令嬢、高木大尉夫人

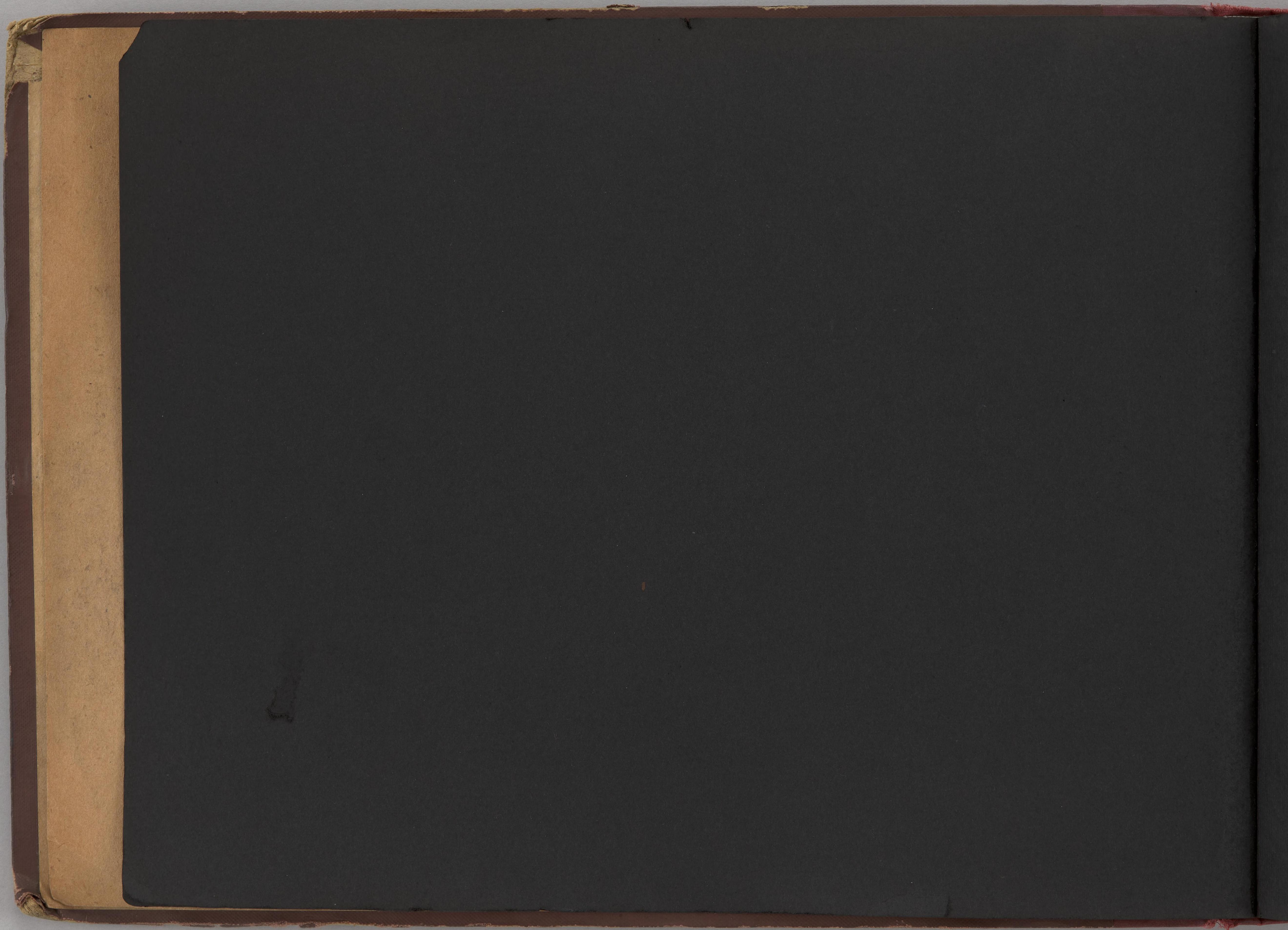




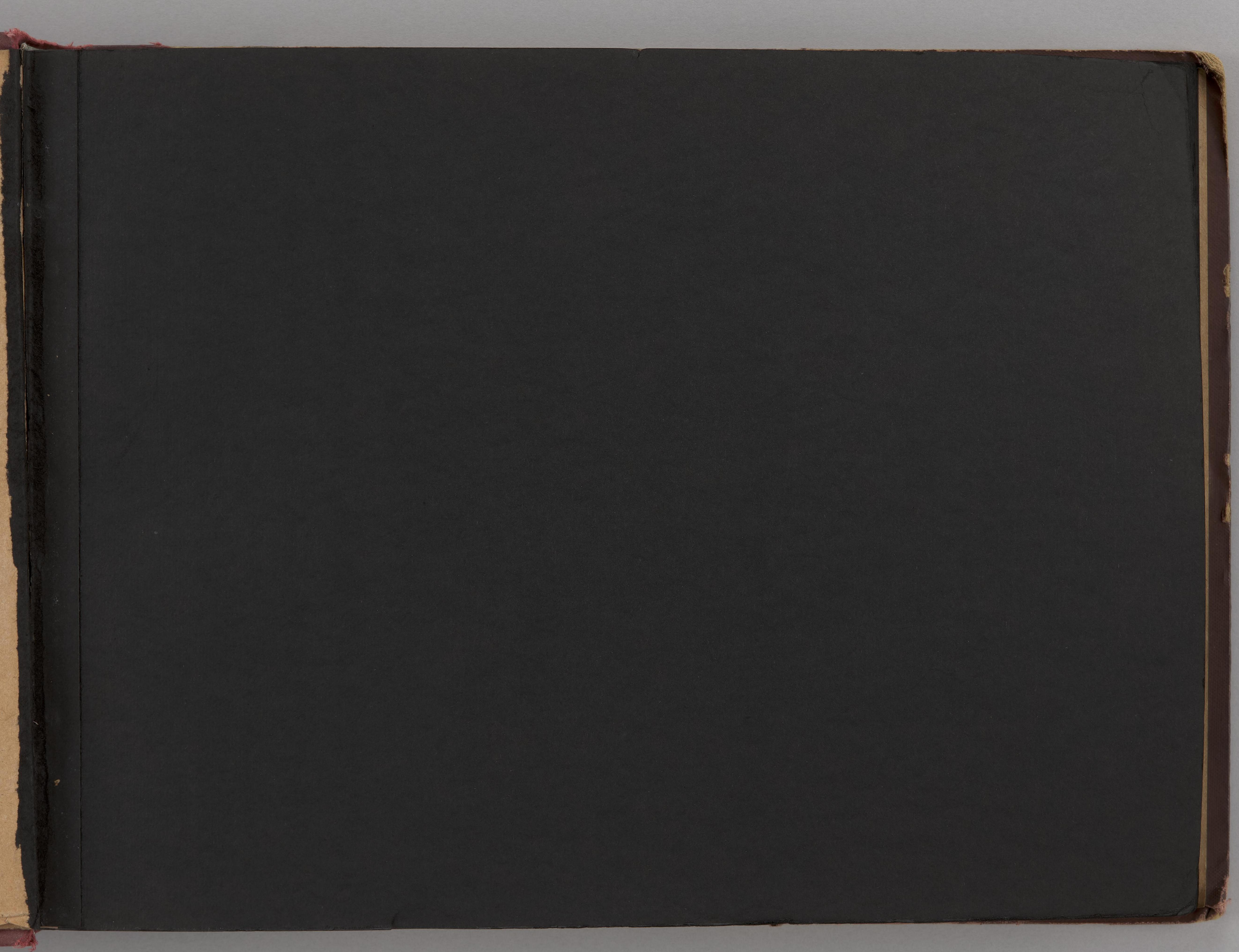








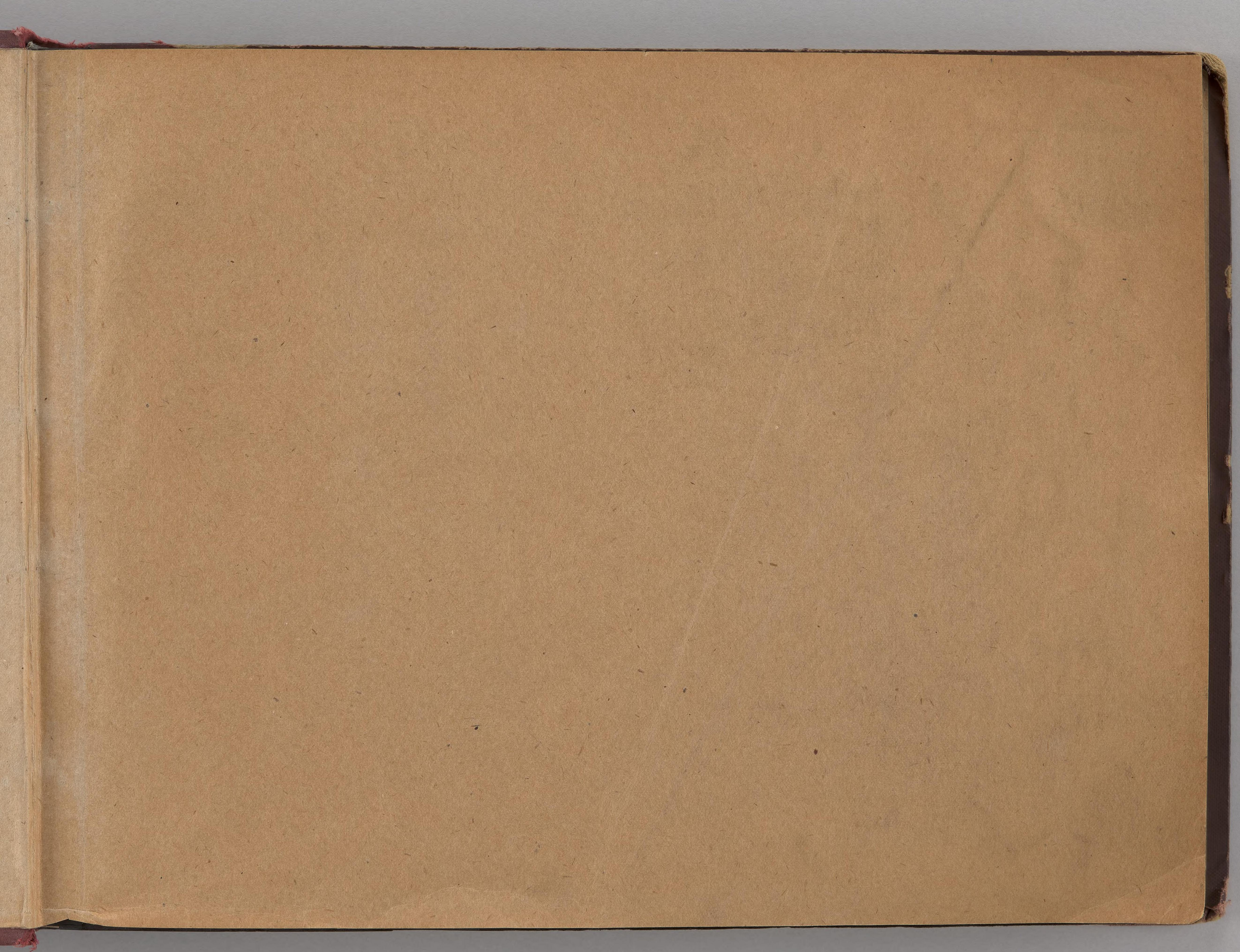














53  
52





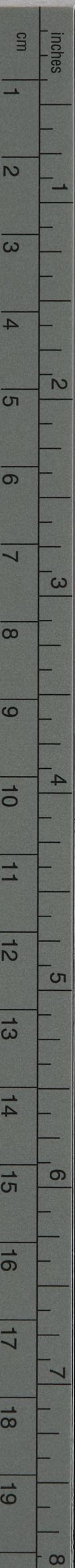


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

